



おやひこさま

彌彦神社社務所

新潟県西蒲原郡弥彦村大字弥彦2887-2
 〒959-0393 / ☎0256-94-2001

交通のご案内



〈列車〉

- 上越新幹線 燕三条駅で弥彦線に乗り換え、終点弥彦駅。タクシー利用は13km・30分 弥彦駅より神社まで1km・徒歩15分。
- 信越本線 東三条駅、又は越後線吉田駅で弥彦線に乗り換え、終点弥彦駅。タクシー利用は東三条より18km・40分。



〈自動車〉

- 関越・北陸自動車道三条燕ICより13km
- 国道8号線三条より15km、国道116号線吉田より5km。神社周辺には無料大駐車場あり。





越後一宮 彌彦神社

広々とした越後平野の中央に聳えたつ弥彦山の麓に鎮まります
彌彦神社は、古くから“おやひこさま”の敬称で広く親しまれて
おります。

境内はうっ蒼たる樹林に覆われ、亭々たる老杉・古樫は見るから
に神々しく最も古い歌集の万葉集にも

いやひこおのれ神さび青雲の棚引く日すらこさめそぼふる

と歌われております昔ながらの神奈備の森です。

緑に映える朱色の一の鳥居を入るとすぐに弥彦山からの清流・
御手洗川を渡りますが、その上方に御神橋・玉ノ橋が架っており、
いっそう荘厳な雰囲気醸し出しております。石畳の参道右側には
神苑があり、巨木に交って里桜も多く、春には可憐な花を咲かせ、
参拝者の眼を楽しませてくれます。

その神苑には鹿苑があり、10数頭の鹿が群れ遊んでおります。
この鹿は古来神鹿と称せられて同じく万葉集に

いやひこ神の麓に今日らもか

鹿の伏すらむ皮服(かほごろも)着て角つきながら

と詠まれています。参詣者は今なお遠い万葉の古をしのぶことが
できます。



一の鳥居

御祭神

天香山命(アメノカゴヤマノミコト)

天照大御神の御曾孫(ひまご)にあたり、高天原より神々が天孫降臨賜いし折にご
一緒に降り、紀州熊野(和歌山県)に住み、神武天皇ご東征の際に帥霊(フツノミタマ)
の剣を奉って大功を立てられました。

神武天皇が国家統一を終え、大和の橿原の宮でご即位になられた4年後に越後地方
開拓の詔を受け、日本海の荒海を舟で渡られ、はるばる越の国の野積浜にご上陸にな
られました。

そこで早速、漁民に海水を焚いて塩を作ることや網・釣針を用いて魚を獲る術を教
えられました。さらに弥彦に宮居を定められてから蛮族を平定され、住民に稲作や酒
造の術をご指導になられ、また、6代の御子孫も協力・継承して越後地方の産業文化
の基礎を造られました。じつに命は、越後開拓・産業文化の始祖神です。

御由緒

当神社は、越後開拓の神と仰ぎこの地に奉祀したのがはじまりで、その年代は詳か
ではありませんが、万葉集から推定して今から1,300年以前であることが明らかです。
社記によれば和銅4年(711)の詔により神域を拓げ、社殿を造営したとあり、この時
すでに神社が創建されております。国史初見は、『続日本後紀』の天長10年(833)の
条で、靈験あらたかなるにより名神祭に預かり、『延喜式』で名神大社に列せられ、
のちに越後一の宮と称されました。

当神社は古来朝廷のご崇敬篤く、皇室をはじめ源頼朝・上杉謙信等の戦国の武将・
徳川の將軍等の崇敬すこぶる篤かったが、それにもまして顕著なのは当地方民衆の崇
敬であります。

古くより「おやひこさま」の名で親しまれ、多くの講が組織され各地に参拝講や大々
神楽講が結成されて盛んにお弥彦参りが行われました。かつてお弥彦さま参りをすま
せていない者は一人前と認められなかった地方もある程であります。